

闘争団現地オルグ

地方本部
守橋委員長

1月20日
22日

何としてもこの機に解決を

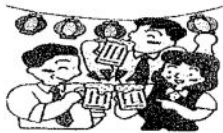
本部主催の現地闘争団激励オルグは、暮れから第6次にわたって取り組まれ、今回が最後の行動で一月二〇日から二二日にかけて函館・札幌・釧路の各闘争団家族との間で行われた。

『やっぱり函館』の思い強し

★故・秋元さん家族も参加★
＝初日に函館で交流＝

激励交流会は17名の闘争団のうち12名が参加。秋元さん家族（奥さん・長男夫婦・孫2人）も元気な顔を見せてくれた。奥さんには『夏頃仲間が墓参りに来ると言ってるのでよろしく』とお願いしてきた。交流前、池田事務局長の好意で八幡坂近辺へ向ったが函館市内は記録的な大雪で道路はデコボコ状態。交流会は団が準備してくれたジンギスカンと帆立、そして、もちろんサッポロ・クラシックビールで乾杯。西田団長は『本当に重要な局面だ。しっかりとした団結を固める』と決意表明。沼田さんは除雪車の補助業務で大変な毎日。沢田さんはセルフサービスのスタンドで夜間のみ勤務。芝田さんはリストラ中でさらに厳しい状態に。大久保さんは『インテリア 拳』の代表として奮闘中。掛端さんは熱弁？も仲間の優しくない激励にもめげず、ほぼ貫徹。悪いが『やっぱり函館』の思い強し。

本当にお世話になりました。



NO. 561
発行
2006・2月15日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

集会成功を

この行動に本部・東日本本部代表と共に参加させていたがいた。

昨年9・15東京地裁判決を機に政治的・全体的解決をめざす機運が強まる中で『2・16集会』への参加を1047名に関係する全ての代表が呼びかけている。解決にむけた被解雇者の大同団結が明確になったこの集会を大きく成功することが当面の重要な取り組みである。現在、通常国会、開会中であり、解決にむけた環境整備も不可欠である。本部は、政治解決を基本に解決に全力をあげる

態度を明確にし、新たな訴訟については次期全国大会で判断することも明らかにしている。激励オルグは、こうした闘いの現状にたつて『何としてもこの機に解決を』との決意をあらためて確認し合うために取組まれた。

『生かせる』と『なれる』の全しき

札幌・釧路行動
『北海道から運動を押し上げる』

激励行動は二二日札幌、二二日釧路と続いた。札幌では地区役員や苗穂工場など分会役員も加わり、二三名の参加となった。

『本部が目の色変えてやっていると受けとめる』『2・16集会を運動前進の契機に、と期待するがシコリ解消のため末端の団員が交流できる場を』『具体的な動きが見えてきたときが、何よりも激励を受ける』『それぞれの指導部が一つになって、解決に向うことが大きな力となる』など現状の到達点を確認しながら、解決への決意を込めた意見が出された。

（裏面へつづく）

★今後の日程☆

- 2月16日 『2・16』集会
- 2月17日 貨物団交
- 2月25日 拡大地方委員会
『トークイン新潟』10時～
- 3月4日 春闘行動 新潟・酒田支部
- 3月17日 青・婦・家族中央行動
- 3月25日 『3・25新潟県民集会』

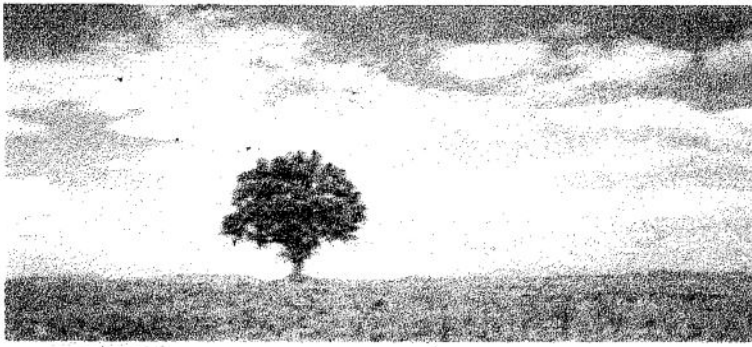


本音の意見が続いた

翌日、札幌七時三分発の列車で釧路へ。到着してまもなく十一時三〇分から交流開始。家族会七名含め一九名参加。団員は五八名、四割が六〇才超。最高年齢七二才である。帰りの飛行機発時刻が気になるまで真剣な意見が交わされた。

本音の意見が続いた

『正確な情報が伝わってこない。本部の考えを含め丁寧な説明を』
『今年は雪が多く、仕事にも影響がある。年金生活も増えている。実効ある解決が、より切実になっている』
『過去の行き掛かりをだすと統一と団結への気持ち引いてしまう。帯広の仲間とも議論している』
『情勢判断で新たな訴訟提起と言われても素直に納得できない』
『国労を理由に首を切られた。解決するのは国労だ。釧路闘争団としての誇りがある。統一結集できる方針を』。
もっと交流の時間がほしいくらい本音の意見が続いた。



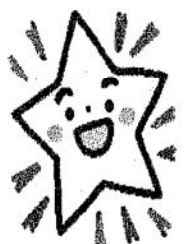
編集後記

第2弾『国鉄新潟』が完成しました。今回は、闘争団の現地交流を、特集してみました。



今年は、各支部で独自の企画で春闘行動が、取り組まれます。ぜひ春闘行動などの記事を地本教宣部へ送ってください。よろしくお願ひします。

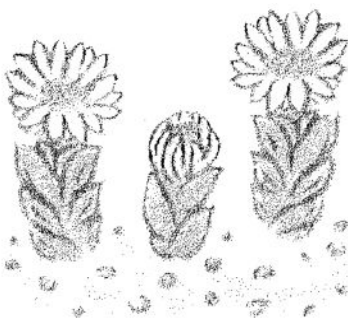
地本教宣部
『国鉄新潟 編集委員会』



解決のために汗を流そう!! 大同団結

全行程を共にした北海道本部 工藤委員長は『2・18北海道集会を計画している。建交労、全動労争議団・平和フォーラムなどと共同して広くよびかけ、北海道から運動を大きく押し上げる』と決意を表明した。

私にとっては、函館を除いて初めての現地交流であった。大会、委員会では聞けない本音の話も聞けた。何としても統一した運動を



果たして激励になったかどうか。難題はあるが『解決のために汗を流そう!! 大同団結』がより確かなものになりつつあることを実感できた激励交流となった。

国労新潟地本

執行委員長

守橋 久仁雄